



白梅通信

12月号外 R4.12.23 発行

宮城県古川黎明高等学校 〒 989-6175 宮城県大崎市古川諏訪一丁目4番26号
TEL 0229-22-3148 FAX 0229-22-1024 <https://freimei-h.myswan.ed.jp>

令和4年度 学校評価アンケート集計結果及び分析結果

今年度も、生徒・保護者の皆様には学校評価のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を基に、各分掌・学年で評価分析をいたしましたので、以下の通りお知らせいたします。これを基に学校評議員の皆様からご助言をいただき、次年度の改善に役立て、今後の教育活動に生かしていくように努力して参りますので、今後ともご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

1 回収率（昨年度より大幅にアップしました。ご協力ありがとうございました。）

- (1) 中学生 89.8% 保護者 78.1%
- (2) 高校生 1年生 75.0% 2年生 86.5% 3年生 92.2% 保護者 68.8%

2 評価結果及び分析について

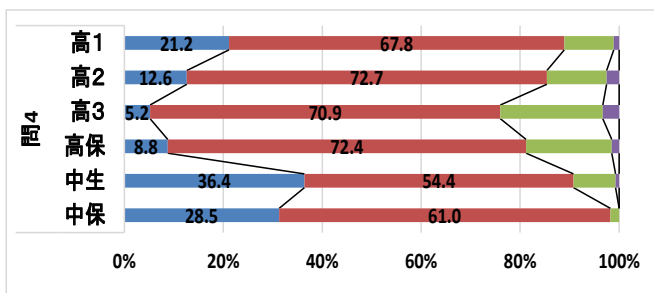
※グラフは左側から、「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」の順です。

※アンケート問1～3は、学年・組・氏名なので載せておりません。

※問4～16の表中左側の項目は、上から「高1」「高2」「高3」「高保」「中生」「中保」の順です。「中生」は中学生、「中保」は中学校保護者、「高保」は高校保護者のことです。

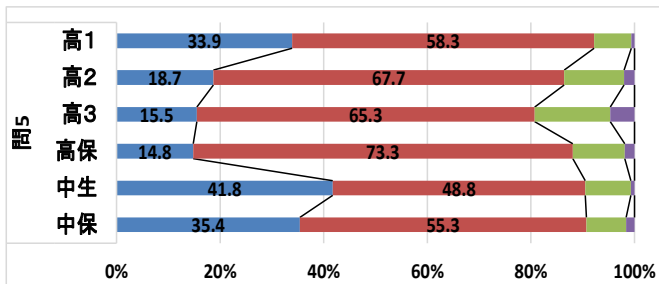
○県立学校共通質問事項

【学習指導（学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている）】



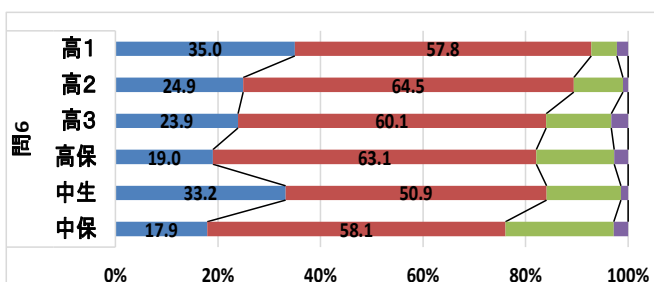
（分析）各学年の生徒および保護者から、概ね肯定的な評価をいただいた。これは、生徒一人一台のタブレット使用環境を実現し、授業におけるICT機器活用の幅がますます広がり、個別最適化な学習が進められていることが理由として考えられる。また、教科間で協力し、授業での取組事例を共有するための研修を充実させ、授業改善に取り組んできたことも理由として挙げられる。学年が進むにつれ、肯定的な評価の割合がやや減少傾向にあることから、受験対策等の学習にも意欲を引き出せるような授業づくりに努めていきたい。

【生徒指導（挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている）】



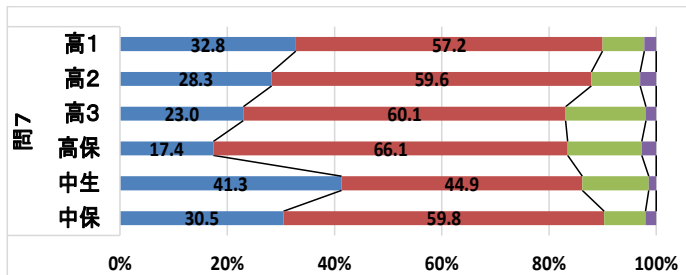
（分析）学年毎に多少の差はあるものの例年並みの評価である。保護者についても同様である。このような評価が得られたことは、日頃からの自発的および主体的な生活習慣確立の表れと言えるだろう。言うまでもなく、挨拶は形式だけのものではなく、他者との繋がりを構築するものでもあります。相手の表情に目を当てることなく機械的な挨拶にならないように、心の通った挨拶ができるようにさらなる指導を継続していくように努めていきたい。

【進路指導（進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている）】



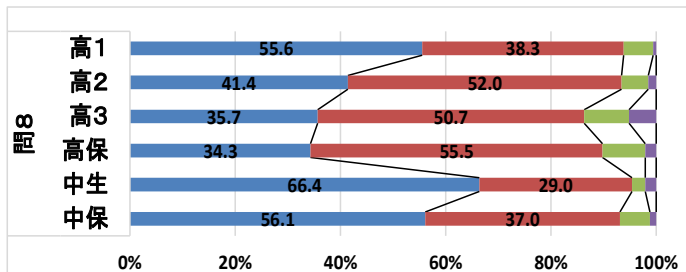
（分析）例年より高校3年生からの評価が低かった。年間の進路計画に基づいて進路ガイダンス等を実施した。また、特別入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）希望者の増加に伴い個々の生徒への指導を計画的かつ柔軟に行えた。しかしながら、全体指導においては、個々の生徒が活用する多様な入試の細部にわたるまでのガイダンスができなかったことは事実である。細部の指導に関しては、各指導担当の先生によるところが大きかった。次年度以降、進路指導部の組織的な取り組みとして検討していきたい。また、必要な情報の提供に努めていきたい。

【教育相談（教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている）】



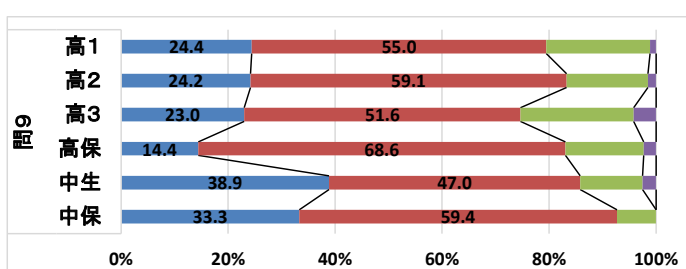
（分析）中学生・高校生，その保護者ともに「よく当てはまる」「大体当てはまる」が80～90%近く，概ね肯定的評価を受けている。相談件数については，特に高校生は増加傾向にあり，積極的に利用している状況である。今後も担当者・養護教諭を中心に学年での情報共有を図り，早期の相談へつなげられるように体制を維持していきたい。

【部活動（学校として，部活動は活発に行われている）】



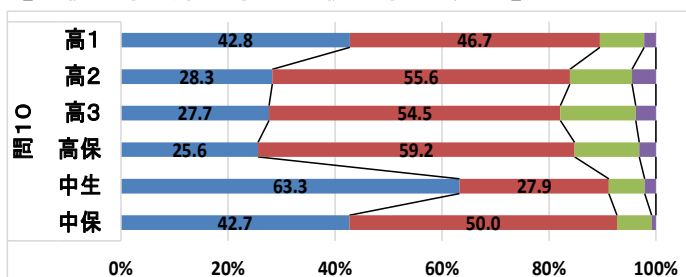
（分析）高校1・2年生に比べて，3年生の評価が低かった。これは活動期間も短い上に，感染症対策による大会の中止や規模の縮小等を高校入学以降，常態化した現状に対する不満の表れと読み取ることができる。次年度以降も同様の評価が高学年を中心に拡がりを見せるかもしれない。仕方ないこととはいえ，部活動のあり方も含めて，コロナ禍に応じた部活動指導に取り組んでいきたい。

【生徒会活動（学校として，生徒会活動は活発に行われている）】



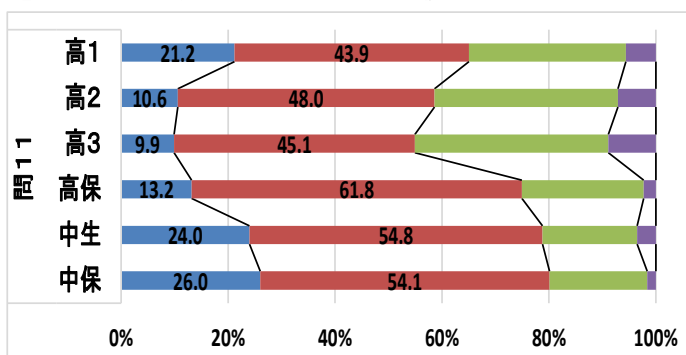
（分析）生徒会活動は，有意義な生徒総会の運営を最大の軸にし，今年度における決議事項をはじめ諸処の課題に取り組んできた。全体からは一定の評価を得ているものの，感染症対策のため，一部リモートでの総会参加にならざるを得ない状況だったが，通信環境の不備で満足に総会を開催できない結果となってしまった。生徒会執行部の創意・工夫と苦勞を十分に理解し，その上で次年度以降も感染症対策を講じての生徒会運営に努めることが課題である。

【学校行事（有意義な学校行事がある）】



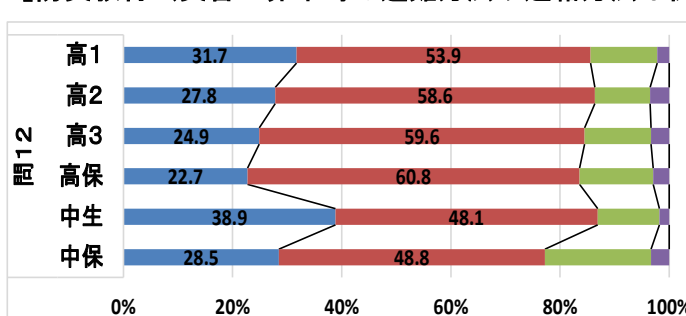
（分析）コロナ禍の3年間，学校行事は完全に感染症対策を第一に計画・実施されているので，生徒からの評価は高校2・3年生を中心に低くなっている。さらに今年度の黎明祭が豪雨の影響で大幅な日程の変更と規模の縮小を強いられたのも，低評価の要因と言えるだろう。その一方で体育祭・球技大会（高校）は感染対策を取りながら実行委員生徒が力を結集し，見事な成功を収めた形で実施できた。今後も感染症対策を踏まえた学校行事を計画・実施しなければならない。

【特色ある学校づくり（地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる）】



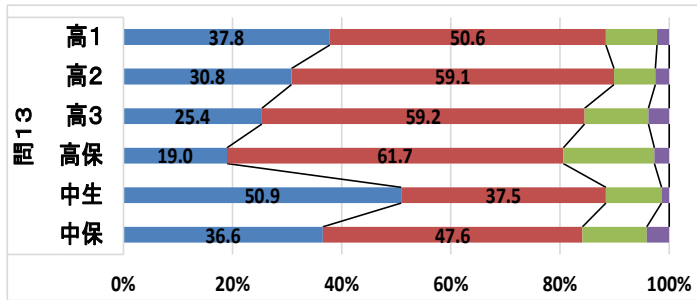
（分析）この問いについては，R01～R03年度は，年々増加傾向にあり，R03年度は最も肯定的な回答が高かった（全体で約69%）。今年度は全体的に肯定的回答の比率が下がり，R02年度並みに戻っている。本校の特色として学校行事や進路指導に加えてSSH事業，1人1台端末の導入をはじめとするICT機器活用による学習指導などが認知されてきたが，これらの特色が定着してきたことで，改めて生徒・保護者に本校の育てたい生徒像にもとづいた特色とは何かを問われ始めてきていると考えられる。併設型中高一貫校の特色を活用した学校づくりをさらに推進していかなければ，今後の評価結果は現状維持か低下が進んでいくという危機感を持ってあたりたい。

【防災教育（災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている）】



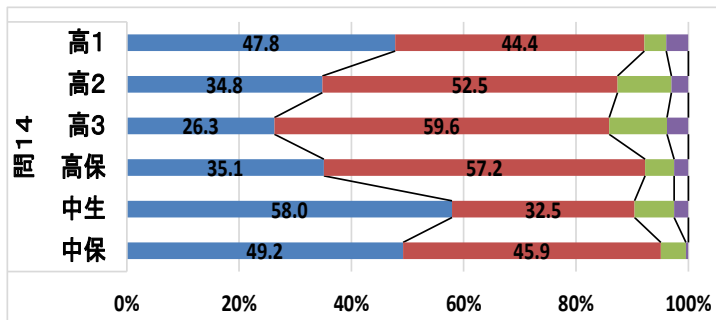
（分析）本年度は，前期後期にそれぞれ1回計2回の防災訓練を実施した。6月は地震対応，11月は火災対応という内容である。支持される数値をみると，どの学年においてもおおそ80%を超える支持を頂き，概ね良好だったことがうかがえる。また今年度は，昨今大きな被害をもたらしている河川の氾濫等による水害対策として，新たに校内における垂直避難訓練を実施した。今後の課題としては，防災訓練の実施内容や実施回数等をどのように学校活動の中に組み入れていくのかということと，日常生活の中における防災啓蒙活動をいかに進めるかということが挙げられる。

【開かれた学校づくり（学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている）】



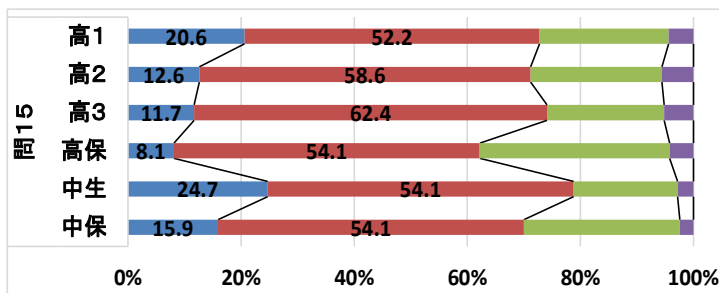
（分析）中学校・高校ともに80%を超える支持があり、概ね良好な状態である。今年度も昨年同様コロナの影響を受けた学校活動ではあったが、HPや黎メール等で学校からの情報提供を頻繁に行ったことが好影響をもたらしたものと考えられる。課題としては、学校からの各種便りが「生徒から保護者に届かない」という声が一部あるため、黎メールの公開ファイルなどを使い、保護者がスマートフォンなどで各種便りを見逃すことがないように、教員側・保護者側に利用と案内を促したい。

【施設整備（校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている）】



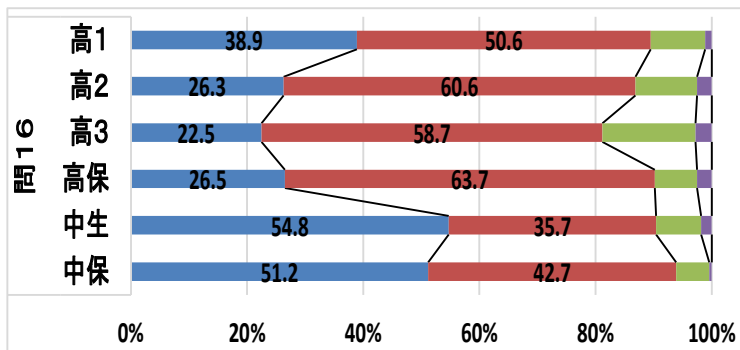
（分析）施設設備については昨年度とほぼ同様の評価結果であった。評価の傾向としては、前年度は「当てはまる」の評価が中学校で高く、高校で低い傾向が顕著であったが、今年度は同様の傾向ではあるものの評価差が緩和されたと感じている。これは、普通教室の空調設備が中学校・高校で同等の性能となったことで夏季の教育環境が改善されたことも一因であると思われる。今後も施設・設備の定期的な点検と計画的な改修整備を行い、安全・安心な施設の維持管理に努めたい。

【いじめ対策（学校として、いじめ問題に対して取組んでいる）】



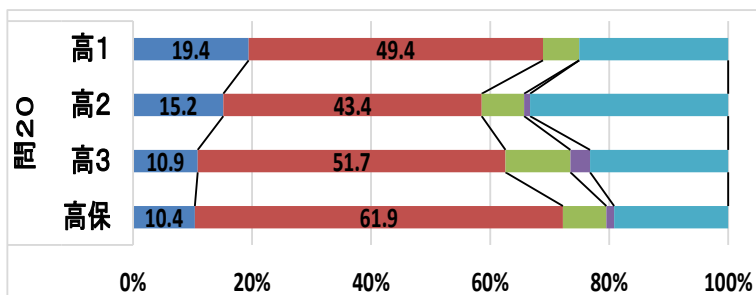
（分析）昨年度までは、紙媒体を使用したアンケートを行っていた。高校では今年度も第1回（6月実施）は紙媒体をしようしたが、第2回（12月実施）ではFormsを使用し、生徒が所有する端末機器から入力・回答する形式に変更した。その結果、2・3年生はさほどの変化は見られなかったが、1学年では昨年度よりも高評価を得ることができた。来年度もFormsを活用し、その結果を通していじめの防止に繋げていきたい。また「いじめ防止講話」において「いじめ防止対策推進法」の周知にも努めたい。

【総合満足度（学校生活は充実している）】



（分析）コロナ禍による学校生活も早や丸3年になろうとしている現在、総合満足度の結果が注目されるが、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」は中学生90.5%（R3比+0.5）、高校生全体85.7%（+3）、中学保護者93.9（+3.3）、高校保護者90.2%（+3.4）と、昨年度を上回る高い数値となった。やはり、コロナ禍による制限も少しずつ緩和し、学習活動や行事・部活動等が少しずつ以前の状態に戻りつつあること、さらにはコロナ禍の生活にもすっかり慣れ、その中でいかに楽しむかを生徒達が工夫・努力していることが端的に数字に表れたものと考えられる。改めて、生徒・保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

【スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている】

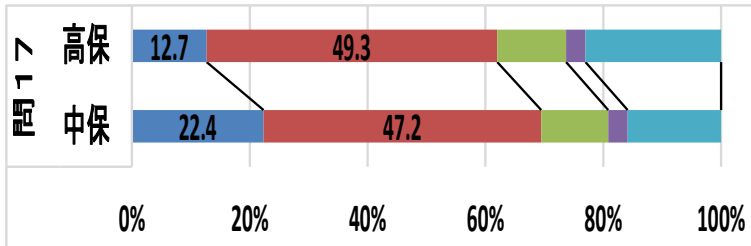


（分析）今年度から新たに「県共通項目」として加わったものである。（正しくは次年度から加わる予定）事前に予想はしていたが、やはり「わからない」という回答が多かった。「教育課程が編成・実施されている」かどうか分からないというよりも、「スクールポリシー」自体がまだまだ認知されていないのだと感じる。今後は、本校策定の「スクールポリシー」について、学校だよりや学校案内など、いろいろな機会をとらえて、まずは保護者・生徒への周知を図っていきたいと考える。

○ 本校独自質問事項

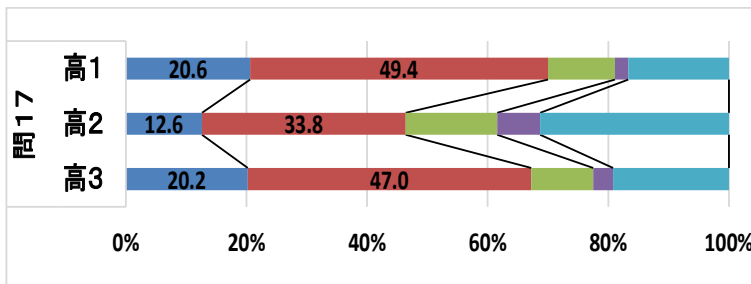
※グラフは左側から、よく当てはまる、だいたい当てはまる、あまり当てはまらない、あてはまらない、わからない です。

【交通安全指導（交通安全指導等の安全指導が十分に行われている）】



(分析) ほぼ昨年度と同じ評価であった。「全国交通安全運動」期間中に教職員・係生徒での街頭指導を行ってきた。今年度も一般市民からの苦情電話を多数受けたが、そのほとんどが送迎の自家用車による交通渋滞に関するものである。生徒の安全を第一に考慮した上で、自家用車による送迎についても全体で考えていかなければならない。

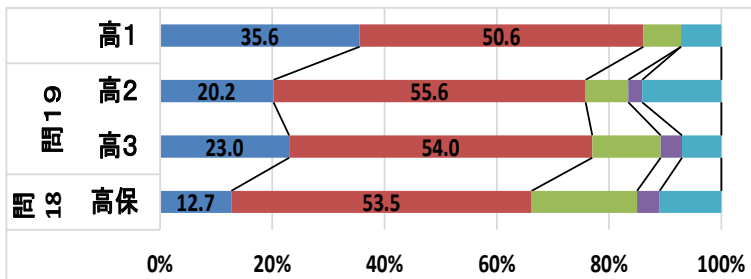
【課外（長期休業中の課外や平日課外は進路達成に役立っている）】



(分析) 高校1年生の数字が例年より高かった。また、2・3年生の数字が例年より低かった。例年より2・3年生の参加率が低い。恐らく、参加をしていない生徒からの評価も含まれているはずである。学習の中心は、普段の授業である。授業の補充や発展内容について扱っている。1・2年の長期課外では、可能な限りのコースに分けて展開している。次に、高3においては、放課後に進学者向け課外を実施し、昼休みは公務員課外を実施している。進学課外は5教科7科目、8科目に対応した講習となっており、1科目あたりのコマ数が多く確保できないの

が現状である。また、多様な進路希望に対してピンポイントでの内容は実施できないことは理解して頂きたい。その上で、大多数が目指す進路希望を概ねのターゲットとしながら、ミスを犯しやすい項目、理解しにくい項目などに焦点を当てながら実施しているところである。課外講習参加のメリットは、一人でやるより仲間と参加することでのモチベーションのアップと、一人では理解し難い点について解説された方が間違いなく効率が良いことである。少々自分のレベルに合っていないなくても粘り強く参加する生徒は伸びます。

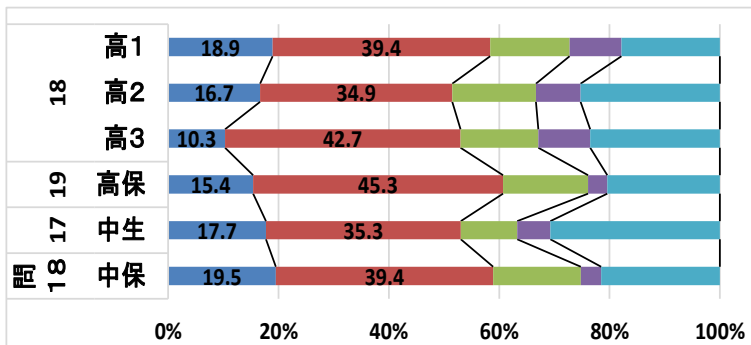
【進路情報（進路を考える上で必要な情報が十分に提供されている）】



(分析) 2025年度入試から新課程入試が開始され、現在1年生が新入試初年度となる。その前年の2年生は現行課程入試の最終年度となり、共通テストでは経過措置がとられる。また、受験については安全志向になると考えられている。その影響により、例年より関心が高い。外部講師による最新の情報を、ガイダンスなどで聴く機会を多く設けている。今後も各大学の動きに注視が必要である。学年スタッフと連携をとりながら、学年の性質に応じた情報の提供に努めていきたい。ただ高校の保護者の数字が低いのは若干気になる。学校から配布している様々な資料や通

信が、確実に保護者のお手元に届くように生徒たちにも呼びかけていきたい。

【SSHは、物事を論理的科学的に考える上で役立っている】



(分析) 2期指定を受けたR01年度から順調に肯定的回答は増加している。SSHは理数系の学びだけでなく、あらゆる領域で論理的科学的思考力を養うカリキュラム開発が重視されており、昨年度までの「科学の興味・関心の向上に役立っている」という問いを今年度のように改めた。肯定的回答の上昇にはSSHのカリキュラム開発が進んでいることだけでなく、全ての生徒がSSHの対象であると認識されたことが影響していると考えられる。全体的な傾向からは、今後特に、高校2・3年生や中学生にSSH事業における研修や外部発表の機会を広く活用する必要があると読み取れる。

※令和4年度の学校評価に関する詳しいデータは、今後学校ホームページに掲載する予定です。どうぞご覧くださいませようご案内申し上げます。